



TITLE:

質疑欄

AUTHOR(S):

---

CITATION:

質疑欄. 天界 1937, 18(200): 71-72

ISSUE DATE:

1937-11-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167568>

RIGHT:

---

## 質 疑 欄

---

(問) 太陽面經緯度圖は如何なる場合に用ふ可きか？ 又その使用法の詳細を説明され度し。(横濱・堀田泰生)

(答) 黒點等の太陽面上に於ける位置を簡単に測定するのに用ひられます。太陽面上の經緯度に就ては「天文年鑑」を御参照下さい。

使用法は各圖に指定してある使用期間に依つて其日の使用す可き圖を選び(例へば一月一日ならば  $-3^{\circ}$ )、太陽像を圖と同じ大さに投影してその北が  $-3^{\circ}$  と書いてある方に行くやうにし、圖を少々回轉して天球の眞西、即ち望遠鏡が固定されてゐるとき太陽像の移動して行く方向を圖に記入してある日附の目盛 Dec. 31 と Jan. 2 の中間に一致せしめます。すると一月一日の太陽面上の經緯度は圖に描いてある經緯度の線で表はされますから黒點等の位置を圖から直接讀みとる事が出來ます。經度の方は中央子午線を基準にして±何度といふ様に讀みとり、後で其日の觀測時に於ける中央子午線の經度に之を加減して決定します。(中央子午線の經度は「天文年鑑」に出てゐます。)

以上は使用法の一例であつて之に限つた事はありません。望遠鏡が赤道儀であれば一邊正確に圖を位置せしめると其日一日中その儘使用出來ますが經緯儀であれば時間がたつにつれて狂つて來ますから圖を適當に回轉してやる必要があります。太陽を寫眞に撮つたり或は薄い紙に黒點の位置を印したりした場合だと、その眞西の方向さへ正確に決定出来るやうにして置けば、後でゆつくり圖を重ねて經緯度を讀む事も出來ませう。要するに 8 枚の圖の何れかを選ぶ事に依つて B に對する補正を行ひ、眞西の方向を其の日附の目盛に一致せしめる事に依つて P に對する補正を行つて太陽の自轉軸を圖の中央子午線と一致せしむればよいので、之を各自の望遠鏡や觀測の方法に適する様に實施するについては各自適當に工夫して下さい。

少し熟練すれば黒點等の位置を、非常に縁に近い部分を除いて、經度、緯度共略  $1^{\circ}$  までは正確に決定出來ます。大切なのは天球の眞西の方向を出來

るだけ正確に定める事です。

なほ $+4^{\circ}$ の圖の使用期間、

(誤)  $+4^{\circ}$   $\left\{ \begin{array}{l} \text{毎年十月六日より七月十六日まで} \\ \text{同 七月三十日より十一月八日まで} \end{array} \right.$

とあるのは

(正)  $+4^{\circ}$   $\left\{ \begin{array}{l} \text{毎年七月六日より七月十六日まで} \\ \text{同 十月三十日より十一月八日まで} \end{array} \right.$

の誤植ですから御注意下さい。 — Q —

## 寫 眞 に 添 へ て (通信)

清 水 眞 一

拜啓、御無沙汰致居候。太陽觀測も、八月以來店員二名應召、随つて自分の任務多く相成、其上知友の相繼ぐ應召に一層暇少く、觀測も十日に充たざる有様に付、御報告も差控居候始末に候。

寫眞は昨年伺候節、普通分光共貴臺にて日々御撮影の様拜聞も致候も、丁度ラデオニュースにも大黒點の出現を報じたる直後のものに付、一葉御檢覽を煩し、然し此寫眞は崩れ始めし頃の様にて、此二三日前の方が大かりしに非るかとも存じ、且、午前中撮影不可能にて、時刻も悪しく、像も随つて不良を存し幸ひ貴臺にて最大のもの御撮影、拜見も出來得べくは幸甚に存候。

其後の彗星も、ハッブルは原板にて辛じて檢索する程度、エンケも數回撮影は致し候。未だ印畫にはなり不申、其中何か御高覽を煩し可申候。

ラインムート新天體は、流石の日本軍でも追撃困難に非るかと存じ、長焦點の魚眼レンズでも作つて全天を一度に撮影する工夫なくもがなと長歎仕候。然し二日夜は海豚座の北邊狐座の一部を試寫仕候。イルカと思つたが何も居ず、狐につまゝれた様とでも可申敷、呵々。

皆様へよろしく願上候。